

\* 外部公開版 \*

この報告書は新潟大学に対して提出したものを再編集したものです。  
肖像権等の関係により、一部資料・写真等を削除・編集しておりますのでご了承下さい。

平成 26 年度後期  
活動報告書

平成 27 年 5 月

新潟大学学生ボランティア本部「ボランち。」

# 目 次

はじめに	3
I. 主な活動の一覧	4
II. ボランティアニーズの集計と分析	5
III. プロジェクト報告	12
ボランティア情報メールマガジンプロジェクト	13
情報発信改善プロジェクト	15
IV. 研修会・ボランティア等の企画および参加報告	16
ふれジョブ説明会	17
第2回パワーアップ研修会	19
平成26年度新大祭	21
仲間の輪を広げる“ボランティアコーディネーション力” を高めよう！研修会	23
第3回全国ボランティアフォーラム	24
平成26年度西区地域連携フォーラム	27

## はじめに

新潟大学学生ボランティア本部「ボランち。」は、昨年度、発足から 10 年の節目を迎え、新たな歩みを進めて参りました。

改めて団体の存在意義を見つめ直し、様々な人の手で活動の新たな価値付けを行い、挑戦を繰り返した 1 年でした。また、今後のより活発な“ボランティアコーディネートを通じた地域づくり”のための基盤づくりが出来た 1 年でもあったと感じております。

これからも、ボランティアを通じて学生と社会との接点をつくり、たくさんの繋がりを生み出せるような働きかけをしていきたいと思っています。

私たちの活動は、たくさんの方の手によって支えられています。いつもご支援下さる学務部学生支援課の皆さまを始め、私たちと関わりながら、様々な歩みをともに作って下さるすべての皆さまに感謝申し上げます。

今後とも、当団体の活動にご理解、ご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

平成 27 年 5 月

新潟大学学生ボランティア本部「ボランち。」  
平成 26 年度代表 角野仁美（教育学部 3 年）

### ■表記について

- ・本書では、以下、新潟大学学生ボランティア本部「ボランち。」を「当団体」と表記します。

### ■報告期間について

- ・本書では、平成 26 年 10 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日の期間の活動について報告します。
- ・本書において、スタッフの役職・所属等は平成 26 年度時点のものです。

## I. 平成 26 年度後期 主な活動の一覧

### 【通期】

ボランティア。カウンター運営（平日昼休み～4限）

### 【10月】

17日・・・学務メール配信（ボランティア情報メールマガジン広報のため）

18日・・・新大祭出店

29日・・・スタッフミーティング

### 【11月】

17日・・・ふれジョブ説明会開催

28日・・・スタッフミーティング

### 【12月】

9日・・・公式ホームページリニューアル

20日・・・第2回パワーアップ研修会実施

26日・・・新潟大学前駅清掃（3名）

### 【1月】

10日・・・仲間の輪を広げる“ボランティアコーディネーション力”を高めよう！研修会参加（2名）

### 【2月】

26日～28日・・・第3回全国ボランティアフォーラム参加（1名）

### 【3月】

10日・・・サークル等新歓説明会にて内野小学校花見についての説明実施

14日・・・西区地域連携フォーラム参加（2名）

### 【春季休業中】

毎週1回程度（原則水曜日13時～16時）、カウンター運営

## Ⅱ. ボランティアニーズの集計と分析

### 1. 概要

当団体の主たる活動は、本学のボランティアセンターとして本学学生に対しボランティアコーディネートを行うことである。この主たる活動が効果的に行われているかを判断し、以後の活動に反映させるため、平成 26 年度前期から、本学学生に対するボランティアの募集状況（以下、ニーズとする）とそれに対する本学学生の参加状況の集計・分析を行っている。今回は、平成 26 年度後期について集計・分析したので、その結果について報告する。

### 2. 目的

- ・ ニーズを集計し、本学学生に対するニーズの傾向を分析する。
- ・ 学生のボランティアへの参加状況の集計し、ニーズとのマッチング状況の分析を通し、ボランティアとニーズのミスマッチを改善するための新たな取り組みを考える。
- ・ 当団体が本学のボランティアセンターとして効果的に機能しているかを客観的に分析する。
- ・ 当団体が行った取り組みが効果的であったかを確認し、今後の課題について考える。
- ・ 当団体スタッフが現況のボランティアニーズと学生の参加状況について認識し、課題を共有することで、今後のコーディネートに活かす。

### 3. 集計・分析の方法

- ・ 各ニーズについて、①分類別、②活動日別、③活動場所別に集計した。
- ・ 個別のニーズについての状況は 10 ページ【資料①】の通りである。
- ・ ボランティア参加人数のうち、「一般学生」とは、当団体に所属しない学生を指す。
- ・ ①分類別について、当団体ではボランティアの広報段階において、ボランティアを活動の種類によって分類している。分類は 11 ページ【資料②】の表を用いて行った。
- ・ 通年のボランティアの参加人数は、平成 26 年度後期に新たに活動を始めた（登録した）学生の人数であり、現在活動を行っている学生の数ではない。
- ・ その他、④当団体カウンターの利用状況についても集計・分析した。
- ・ 分析は、平成 27 年 4 月 9 日の当団体スタッフミーティングにて行い、同時に分析を受けて、今後考えられる取り組みも話し合った。



分析の様子

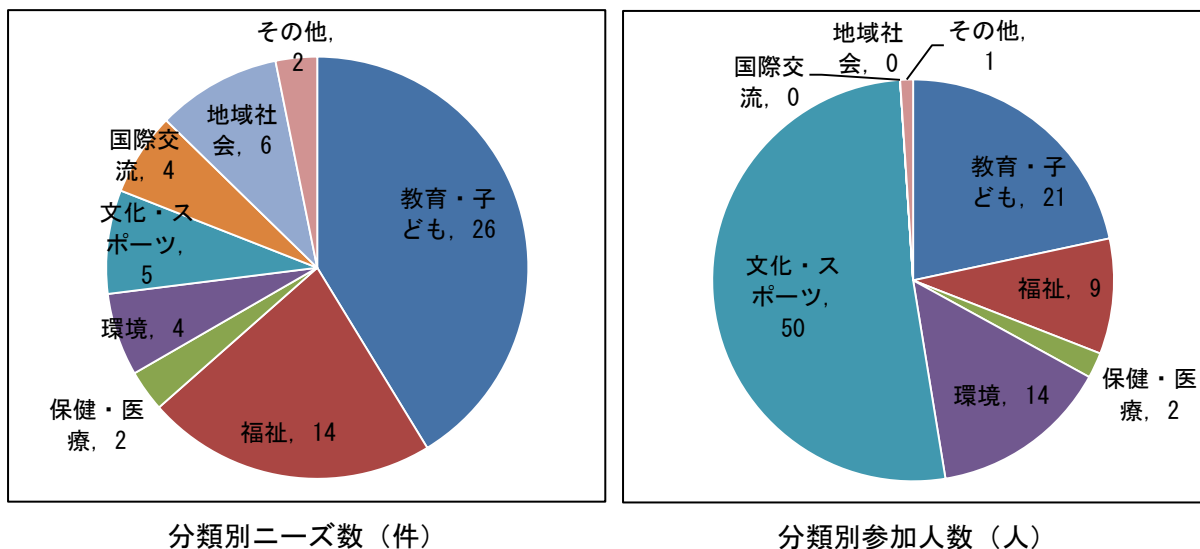


分析の結果

#### 4. 集計結果・それに基づく当団体の分析

以下に、各項目の集計結果とそれに対する当団体の分析、今後考えられる取り組みを示す。

##### ①分類別



##### 【分析結果】

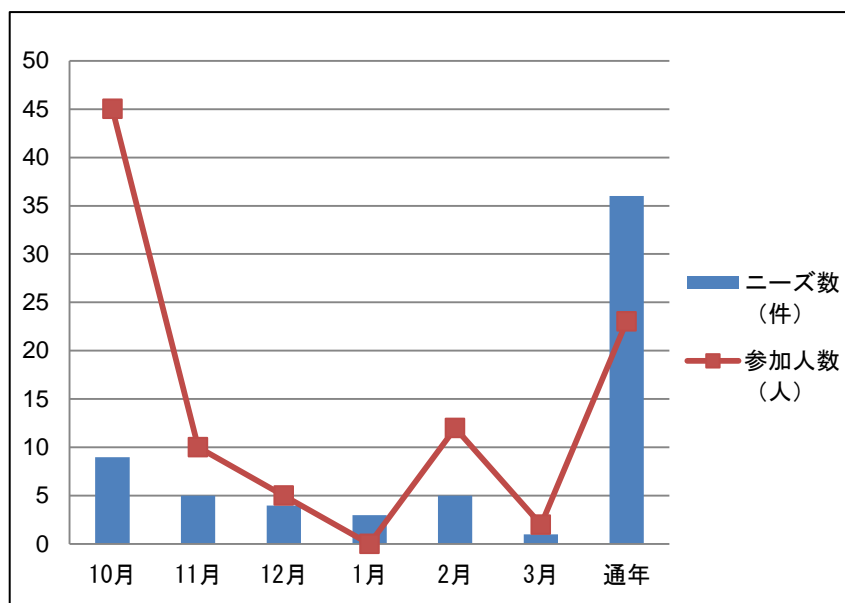
- ・ 「子ども・教育」のボランティアについては、ニーズ数、参加人数ともに多い。
- ・ 「文化・スポーツ」のボランティアについては、ニーズ数が少ないにもかかわらず、参加人数が多い。(部活動単位で参加したクラブがあったことも要因の一つとして考えられるが、それを除いても参加人数が多い。)
- ・ 「福祉」、「地域社会」のボランティアについてはニーズ数に対し、参加人数が少ない。
- ・ イベント企画や交流等が目的のボランティアについて、ニーズはあるものの、参加者がいない。

##### 【分析を受けて】

- ・ スポーツ系のボランティアについては、関係のありそうな部活動・サークル等に声をかけ、団体での参加を促す。その際、団体でボランティアに参加することの意味、メリットをしっかりと説明する。(団体向けに説明会を実施したり、各団体の連絡BOXを使用させていただけるように交渉する。)
- ・ 特定の人気のあるボランティアについては、早期から特集のような形で取り上げ、広報する。
- ・ 「子ども・教育」、「文化・スポーツ」のボランティアについては、初めてボランティアに参加する学生でも取り組みやすいボランティアとして推奨する。
- ・ 「福祉」、「地域社会」のボランティアについて参加人数を増やすための方法を検討する必要がある。
- ・ 広報の段階でそれぞれの分野に分類しているので、それを活かして関係する学部ターゲットを絞った広報も検討する。

##### ②活動時期別 (※複数月にまたがるもので通年以外のは、早い方の月で集計)

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通年	計
ニーズ数(件)	9	5	4	3	5	1	36	63
参加人数(人)	45	10	5	0	12	2	23	97
うち一般学生(人)	40	5	5	0	12	2	20	84



活動時期別ニーズ数・参加人数

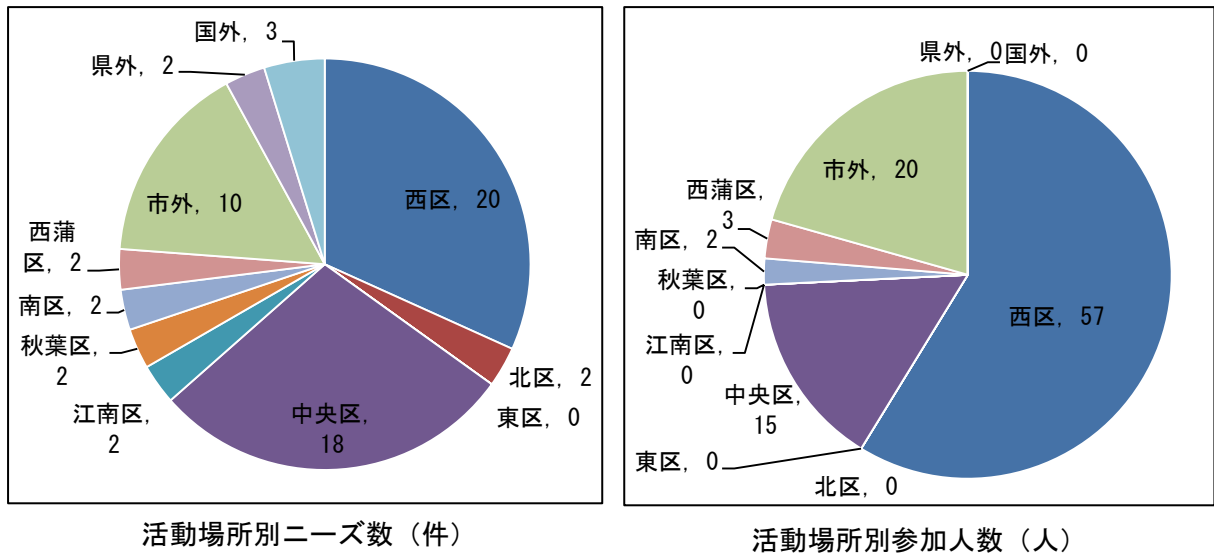
#### 【分析結果】

- ・ 10月・11月・2月についてはボランティア参加人数が多い。10月・11月は、部活動単位でのボランティア参加があったことと、10月から開始したボランティア情報メールマガジンに一定の効果があつたことが考えられる。2月については、学務メールを利用したボランティアの募集を行ったため、試験期間中であつたにもかかわらず参加人数が増えたことが考えられる。
- ・ 11月については、学生からのボランティア参加に関する問い合わせが多いものの、ニーズが少ない。恐らく、イベント等を開催しづらい時期であると考えられる。
- ・ 冬季について（特に1月）は、全体的に参加人数が少ない。理由としては大学自体が長期休業に入ってしまう、試験が近いという点の他に、天候の影響等も考えられる。
- ・ 3月については、年度末であることもありニーズ数自体が少ないが、ボランティアの参加人数も少ない。
- ・ 通年のボランティアについては、ニーズ数、参加人数ともに年間を通して安定している。

#### 【分析を受けて】

- ・ あらかじめ長期休業中のボランティアを一覧にし、特集のような形で広報する。（長期休業中にどうやって参加人数を増やすかが今後の課題。）
- ・ 年度の早い段階で、ボランティア参加を呼びかける。（新入生に対しては、参加することで友達づくりのきっかけとなることをアピールする。）
- ・ ボランティア情報メールマガジン、学務メールを用いた広報は大きな効果があるので、メールマガジンについては、引き続き定期的に学務メールで広報させていただくように依頼する。
- ・ 学生が比較的時間に余裕がある時、広報に力を入れる。（講義内での広報やビラ配りを行う。）

③活動場所別（※複数ある場合は、最も大学から近い活動場所で集計）



【分析結果】

- ・ 前期に引き続いて西区・中央区等の大学近郊のニーズ数・参加人数が多い。一方で、前期と比べ西区以外でのボランティアの参加人数が増加した。
- ・ 西区・中央区以外の区の参加者について、全くいない区もある。西区・中央区以外の区に住んでいて、大学まで通ってくる学生もいるので何とか改善しなければならない。
- ・ 国外・県外でのボランティアは、金銭面等の関係もありやはり参加が難しい。

【分析を受けて】

- ・ 遠方でのボランティアについては、行き方・予算等もわかりやすく提示して広報する。案として掲示板に地図形式でボランティア情報を提示する。
- ・ 複数回参加しなければならないボランティアよりも、1回のみでも参加可能なボランティアであれば遠方でも参加しやすくなるので、そういった点も募集团体に伝える。
- ・ 遠方でのボランティアについては単発のものを推奨し、ボランティアに参加したついでに活動場所周辺の地域を散策するような企画を検討し、遠方でのボランティアでも参加しやすくする。

④カウンター利用状況

月	学生(申し込み等)	ニーズ(募集相談等)	その他
2014年 10月	11	3	1
2014年 11月	17	0	0
2014年 12月	5	2	2
2015年 1月	4	4	0
2015年 2月	1	1	2
2015年 3月	1	0	3
小計	39	10	8

計 57(人)



### 【分析結果】

- ・ ニーズ数とカウンター利用者数、(ボランティアへの参加人数) はあまり関係がない。
- ・ 12月からカウンター利用者数が減少している。これは大学が試験や長期休暇に入り、学生がカウンターに来づらくなる他、その日程の影響でカウンターの運営自体が流動的になってしまうことが理由として考えられる。

### ⑤その他(全体に共通する事項等)

#### 【分析結果】

- ・ 現在掲示しているポスターは学生にとって固い印象を与えるものもあり、改善が必要。
- ・ 学生全体の人数(約1万人)に対し、ボランティアに参加している人数が少なすぎる。
- ・ 前期に比べて、当団体スタッフ自体のボランティア参加人数が減少した。スタッフ間でボランティアに参加することの声かけがあまり出来なかったことが理由として考えられる。

#### 【分析を受けて】

- ・ ポスターについては、学生の目線に立ってわかりやすいものを作成するように心がける。また、手書きやPCでの作成のための技術を向上する。
- ・ 参加人数については、学生に対して当団体の認知度が低いことが最大の理由であると考えられる。当団体の認知度を上げれば、カウンターを訪れる学生も増え、おのずとボランティア参加人数も増える。そのため、新入生を対象とした講義内で当団体の紹介をする、ボランティア情報メールマガジンを活用するため、掲示板・ビラ等でもこれについて広報する。
- ・ 日々の活動を通して、学外の方に対しても当団体の認知度が低いと感じている。当団体から地域の方に対してなげかけるような取り組みが必要である。
- ・ 当団体スタッフがボランティアに参加することは、一般学生にボランティアの良さや感想を伝えたり、ボランティアの現状を認識することができる。こうしたことはコーディネートの際、非常に重要である。また、スタッフがボランティアに参加することで、1人ではボランティアに参加することに抵抗がある一般学生もスタッフと一緒に参加することができ、参加しやすい環境を創ることができる。こうした点を考慮すると、スタッフ同士でボランティアに参加することを誘い積極的に参加することが必要である。

## 5. 今後に向けて

ボランティアニーズや参加者を分析することで、当団体の活動の成果や課題を認識し、スタッフ同士で共有することができた。今後は、この分析で発見した新たな課題をどう改善していくか、どれだけ実際の取り組みに活かしていくかが鍵となる。また、今後も定期的にこうした分析を行い、当団体の活動を客観的に振り返ることを大切にしていきたい。

文責：秋山優太(工学部2年)

【資料①】平成26年度後期 ボランティアニーズ一覧

＝公開版では省略させていただきます＝

【資料②】 ボランティア活動分野の分類及び事例

=公開版では省略させていただきます=

### Ⅲ. プロジェクト報告

# ボランティア情報メールマガジンプロジェクト

## 1. 概要

本学学生にむけて、ボランティア情報を発信するための手段として、ボランティア情報メールマガジンを新設した。平成 26 年度前期から配信形態や頻度、内容などを検討し、10 月から配信を行った。

## 2. 目的

当団体の課題の 1 つである「学生に対するの広報」を強化するために行っている活動である。学生に直接情報を発信することで、当団体に足を運ばなくてもボランティア情報を得ることができ、学生がよりボランティアに参加することを狙った。

## 3. 内容

- ・ボランティア情報や当団体からの告知事項を週に 1 回配信する。
- ・メールマガジンシステム (Gmail) の管理

## 4. 成果・課題

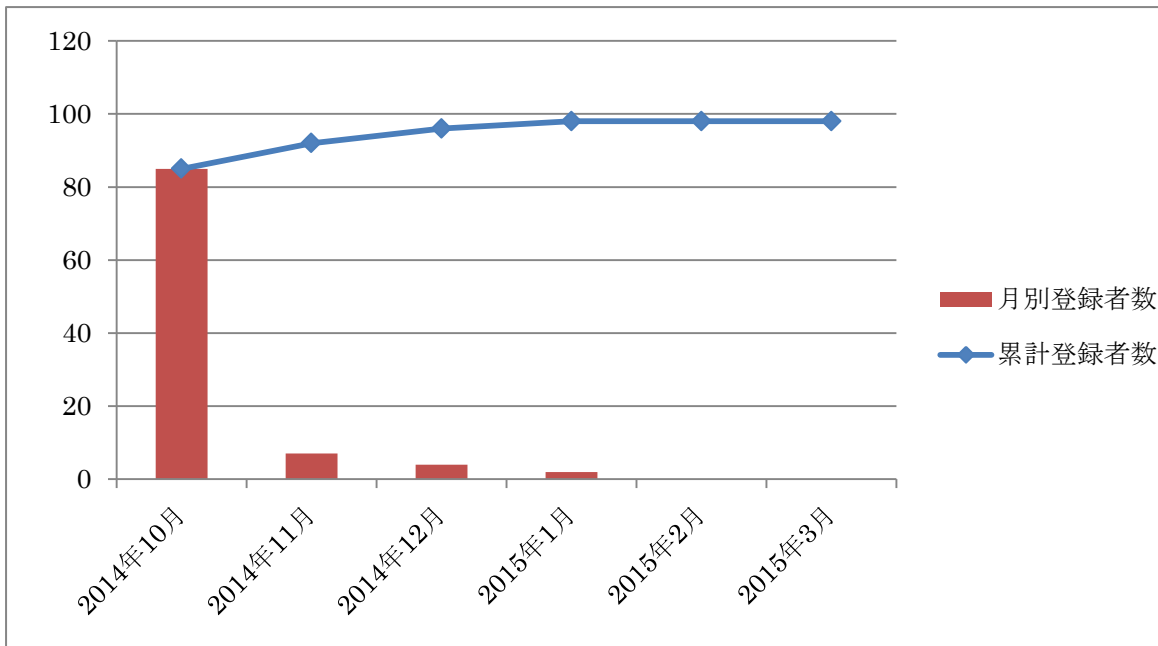
学生支援課の協力もあり、平成 26 年 10 月 17 日に全学生を対象としてメールマガジンの広報メールを配信することができた。配信当日は 62 人の登録者を記録し、10 月だけで 85 人の登録者を達成した。8 ページのカウンター利用状況の分析からも窺えるように、配信月の 10 月、翌月 11 月はカウンター利用者数が増加した。このようなことから、ボランティア情報の広報手段としては有効だと思われる。

しかし、必ずしも現状が成功しているとは言えない。メールマガジンの登録者は 10 月以降増加せず、平成 26 年度末時点で 97 人となっている。メールマガジンの広報を学務メールのみに頼らず、当団体が行う広報をきっかけとして、メールマガジンの登録者を増やす有効な手段を考える必要がある。その他にも、メールマガジンの頻度 (現状は週 1 回) が適切かどうかの再検討、メールマガジン配信システムの改善も必要である。特に配信システムは、特定の 1 人に業務が集中しており、担当者が不在の期間は配信が滞ってしまう。全員が平等に負担できるシステムを構築することが必要である。

## 5. 今後に向けて

新入生等は当団体の存在やメールマガジンについて知らない場合もあるため、今後も、定期的に (年間数回) メールマガジンについて広報する学務メールを配信していただくことが大切である。また、4. 「成果・課題」で挙げた「特定の人に業務が集中する」問題も、メールマガジンを長く続けていく上で解決する必要がある。全員がシステムを理解し、業務を行うことが出来るように講習を行う必要がある。

文責：山田将和 (人文学部 2 年)



メールマガジンの登録者数の推移（月別・累計）

## 情報発信改善プロジェクト

### 1. 概要

ボランティアコーディネートにおいて、情報をわかりやすく的確に発信することは重要な要素の一つである。このことを達成するために、ホームページ（以下、HP）や Twitter、Facebook 等の SNS を用いた情報発信の改善を行った。

### 2. 目的

- ・ 情報をわかりやすくタイムリーに発信し、学内・学外に対する当団体の認知度を高める。
- ・ 情報をわかりやすく発信し、当団体カウンターを利用する方の不安や疑問を小さくする。

### 3. 内容

- ・ 公式 HP のリニューアル（新 HP の URL・・・<http://nuvc.jimdo.com/>）

平成 26 年 12 月、当団体公式 HP を全面的にリニューアルした。以前の HP は管理・更新が難しい、表記がわかりにくいなどの点があり、これを改善するために行った。旧来開設していた「ボランティア情報ブログ」についても、HP に統合し、HP を閲覧すれば当団体の情報が全て収集できるようにした。また、平成 26 年度前期活動報告書から、HP にアップロードし、閲覧できるようにした。一方、旭町キャンパスの学生に対するボランティアへの参加の仕方等を示したページも作成し、これまで考慮していなかった旭町キャンパスの学生に対する当団体の利用を促進した。

- ・ SNS の活用

当団体は、Twitter と Facebook の 2 つの SNS を利用して情報発信を行っている。以前は、SNS を利用した情報発信は、主にボランティア情報の広報にとどまっていたが、今年度から活動状況についても発信した。このことで、SNS の特性を活かしたタイムリーな情報発信ができた。また、Twitter と Facebook それぞれのユーザーの特性（学生は Twitter の利用率が高い）を活かし、学生向けの情報は Twitter、その他、地域の方も対象となる情報は Facebook で発信するよう心掛けた。

### 4. 成果・課題

HP の更新頻度が上がり、よりタイムリーな情報発信が出来ている。また、HP を見たという学生や地域の皆さんからの問い合わせも増え、重要なツールだと感じている。活動報告書をアップロードしたことに関しては、ニーズに対して学生ボランティアの現状を伝えるきっかけとなっており、良い効果が出ている。SNS に関しては、学生や他のサークルとネットワークをつくるきっかけとなっている。

### 5. 今後に向けて

当団体の情報発信は、学生のみならず、地域の方や各種団体など、様々な年代・地域の方が対象となる。様々な方に対して的確に、わかりやすく、タイムリーに情報発信を行うことは当団体の認知度、ひいては信頼に繋がる。今後も各スタッフがこうした意識をもって、行っていきたい。

文責：秋山優太（工学部 2 年）

#### IV. 研修・ボランティア等の企画および参加報告



# ふれジョブ説明会

## 1. 概要

ふれジョブひまわりから、本学でふれジョブの説明会をしたいという要望を受けた。よって当団体が説明会の準備、運営を行った。

ふれジョブとは、障がいをもった子どもたちが就業体験を通して、生涯自分の住んでいる町でいきいき楽しく暮らしていけるようになることを目的とした活動である。ふれジョブの各団体は子どもたちを補助するボランティア（ふれジョブサポーター）を募集しているが、ボランティアの数が足りない状況である。特に三条を拠点として活動しているふれジョブひまわりでは、ふれジョブサポーター不足という問題が深刻化している。そのため、ふれジョブに参加できない子どもたちもいる。

その解決策として、ふれジョブひまわりは、大学生のボランティアを増やしたいと考えた。理由は、大学生は子供たちと年齢が近いため子どもたちが話しやすく、比較的時間に余裕があってボランティアに参加する時間を設けやすいからである。また現在、学生のボランティアの参加者が少ない。そこで、大学生にふれジョブのことを知ってもらい、ふれジョブサポーターとして活動してもらえような人を募集する目的で、本学で説明会を行うことになった。

説明会は平成 26 年 11 月 17 日（月）18 時から新潟大学総合教育研究棟にて行った。

## 2. 目的

- ・ ふれジョブサポーターのボランティアを募集するため。
- ・ ふれジョブという活動を多くの人に知ってもらうため。

## 3. 内容

- ・ 説明会の準備内容

### ①説明会の広報

ビラづくり、ビラ配り（第 1 食堂前）、講義内での広報、掲示板へのポスターの掲示、SNS

### ②ふれジョブ担当者との打ち合わせ

- ・ 説明会の場所取り、必要なものの用意（プロジェクターなど）

- ・ 説明会の補助

ふれジョブひまわりの方の説明の補助をした。

説明会では、ふれジョブという活動ができた経緯、ふれジョブの成果、ふれジョブが抱えている問題などについて説明がなされた。ふれジョブの成果については、ふれジョブを体験した子どもの変化を保護者が語っているビデオが上映された。ふれジョブサポーター不足は、ふれジョブ存続の危機を及ぼしている。最後には、次の説明会を活かすために、説明会に参加した人々にアンケートを記入してもらっていた。

#### 4. 成果・課題

今回の説明会は広報に力を入れたが、実際に説明会に来た人の数は少なかった。しかし説明会を最後まで無事に終わられたことは良かった。

今後の課題は、説明会に来てくれる人を増やすことである。

#### 5. 今後に向けて

今回はふれジョブの説明会の準備・運営をした。準備期間が1～2か月という短い期間であったため、広報が非常に難しかった。時間がない中での広報は、対象者を絞ることが大切だと学んだので、今後は広報をする人数にこだわるよりも、対象は誰なのかをしっかりと考え、広報していきたい。

文責：堀越日都美（教育学部1年）



説明会の様子

## 第2回パワーアップ研修会

### 1. 概要

当団体では、新潟大学の学生に対してボランティアコーディネーションを行っている。その一環としてボランティアの広報活動を行っているが、ただ広報するだけでは、ボランティアに参加する学生を増やすことは難しい。そのため、より学生にボランティアに参加してもらうにはどうしたら良いかを考えるために、平成26年12月20日に第2回パワーアップ研修会を行った。また、この研修会では、当団体で行っているベルマークやインクカートリッジの回収・送付の仕方や、メールマガジンやホームページについても説明が行われた。

### 2. 目的

当団体がボランティアの広報を行う上で、より多くの学生にボランティアに参加してもらうにはどうしたら良いかを考える。

### 3. 内容

- ・ベルマーク、インクカートリッジについての説明
- ・メールマガジン、ホームページについての説明
- ・グループワーク

実際に当団体からの紹介でボランティアに参加した学生を招き、なぜボランティアに参加したのか、参加してどう思ったのか等を発表してもらった。その発表を踏まえて、グループに分かれて、なぜ学生はボランティアに参加するのかを話し合った。そこから、今後の広報活動についてアイデアを出し合った。

### 4. 成果・課題

実際にボランティアに参加した学生からの意見を聞くことによって、学生のボランティアに対するイメージや気持ちを知り、また、私たち自身も考えることができた。それを踏まえ、当団体に出来ることは、ボランティアをしようか迷っている学生の気持ちを受け止めて、実際に参加してもらえようような広報をすることだと分かった。具体的には、ボランティアに参加した学生の感想や意見などを掲示板やホームページなどに掲載する、ボランティアをしている写真を当団体が掲示しているポスターに載せるなどボランティアに対する安心感や興味を持ってもらえる様な案が提案された。現在の広報のやり方では、ボランティアに参加するために必要な情報は得られるものの、学生を後押しするような情報が少なかったため、改善する必要がある。

## 5. 今後に向けて

より多くの学生にボランティアに参加してもらうために、実際にボランティアに参加した学生の感想や意見を広報活動に反映させていきたい。

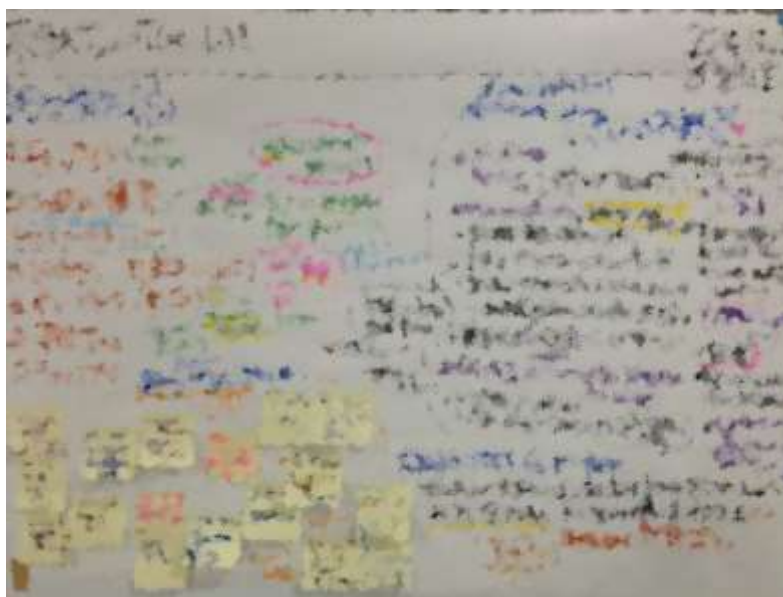
文責：片見依利（工学部1年）



研修会の様子



グループワークの記録



研修会の記録

## 平成 26 年度 新大祭

### 1. 概要

平成 26 年 10 月 18 日、新大祭が行われ、当団体は「ボラカフェ」を出店し、またカフェと並行して「フードドライブ\*1」を行った。

### 2. 目的

今回の「ボラカフェ」出店は、当団体、そして当団体が毎週発行するボランティア情報メールマガジンや Twitter、Facebook 等 SNS の認知度を高めることを目的としたものである。

「フードドライブ」は、フードドライブを学生や地域の方々に知っていただくこと、人が多く集まる新大祭で多くの食品を集め、フードバンクにいがたに寄贈することを目的としたものである。

### 3. 内容

「ボラカフェ」では、ケーキやワッフル、大福、飲み物等の販売をした。2 か月前から準備を始め、新大祭以前に SNS 等を通じた宣伝を行い、多くのお客さまに来ていただけるよう努力した。新大祭当日は、カフェに来てくださったお客さまが、注文から提供までの待ち時間に見ることができるよう、メールマガジンの登録方法や SNS の QR コードを示した紙、さらに当団体のポスターを店内外に掲示した。

「フードドライブ」では、地域の回覧板や掲示板にポスターを貼らせていただき、SNS で宣伝するなど、新大祭以前の宣伝に力を入れた。新大祭当日は「ボラカフェ」入り口にブースを設け、食品の受付を行った。

### 4. 成果・課題

事前の宣伝効果もあり、「ボラカフェ」には多くのお客さまに来ていただくことができた。宣伝効果に関しては、特にメールマガジンは開始時期に存在をアピールできたため、登録者増加につながった。今回は掲示という形で当団体やメールマガジン、SNS の認知度向上を目指したが、今後はより積極的なアピールが求められる。

「フードドライブ」では、多くの地域の方々や学生から食品の寄付が集まった。集まった食品は、ボラカフェで残った飲み物とともに、後日新潟市中央区「シネ・ウインド」で行われたフードドライブにて寄贈した。また新大祭当日は、フードバンクにいがたの関係者の皆様もフードドライブの様子を見に来てくださった。このように、当団体がかかわりを持つ団体と、イベントに参加しあうことで、互いの活動をさらに盛り上げることができると思う。

### 5. 今後に向けて

今年度の新大祭での活動は、当団体やメールマガジン、SNS の認知度向上につながったと感じている。さらに認知度を高め、当団体そしてボランティアに興味を持つ方が増えるよう、今後の活動を通してアピールしてゆきたい。

\*1 フードバンクにいがたが行う、新潟市で消費するには十分に安全な規格外食品を企業や市民等から寄贈してもらい、必要として福祉施設などに届けるシステムの構築を目指す活動\*2の一環。当団体からも毎月2~3名がボランティアとして活動に参加している。今回は出張という形で、新大祭でフードドライブを行った。

\*2 <https://ja-jp.facebook.com/foodbankniigata>

文責：齊藤ほのか（人文学部1年）



新大祭で集まった食品を寄付する様子

# “ボランティアコーディネーション力”を高めよう！研修会

## 1. 概要

平成 27 年 1 月 10 日（土）福島学院大学駅前キャンパスで、認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会の岩井俊宗氏を講師として、ボランティアコーディネーション力を高めるための研修会が行われた。当団体からはスタッフ 2 名が参加した。

## 2. 目的

ボランティアコーディネーターの役割を再確認し、講義・ワークショップを通じて、どうすればより多くのボランティアに携わる人が自分の強みを引き出せるかを考察する。

## 3. 内容

### ①ボランティアコーディネーションについての講義

- ・ ボランティアコーディネーションの定義
- ・ コーディネーションの機能
- ・ ボランティアコーディネーターの役割
- ・ 参加したくなるプログラム作り

### ②ワークショップ

- ・ ボランティアを实际行うにあたって困ったケース  
(スタッフ間の連絡不足により情報共有ができなかった・ボランティア先で子どもが遊んでくれない・アクセスの難しさ)

## 4. 成果・課題

この研修会を通して、ボランティアに参加した人が意欲を失わないようにするためには、ボランティアに参加して、価値のあるものだと感じ取ることができるように、コーディネーターがボランティアに参加した人の目線でプログラムを説明するべきと考えた。

## 5. 今後に向けて

ワークショップで話し合った問題が解決できるものか検討し、できるものは改善していかなければいけないと考えた。

文責：鳴瀬佑樹（理学部 1 年）

## 第3回 学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会

### 学生ボランティアフォーラム

#### ～シェアしてつながろう！ボランティア～

#### 1. 概要

本集会は日本初の全国でボランティア活動をする学生のためのネットワークフォーラムである。現在日本には学生ボランティア団体を総括するような全国組織が存在しない。そこで、全国の学生ボランティアの交流と学び合い、その学生たちを支援する大学と関係機関の担当者間のネットワークをつなぎ深める機会とし、それぞれの活動や課題について情報交換や協議を行うものである。今年で3回目となる本集会は東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで平成27年2月25日～27日の3日間行われ、当団体からは1名が参加した。

#### 2. 目的

全国のボランティアコーディネーターと交流することで当団体の名を広めると同時に、各大学がボランティアコーディネーターとして活動を行っていく上で挙げた課題とその解決策を考え、共有する。

#### 3. 内容

##### 【2月25日（火）】

##### I. 学生シンポジウム「つながる みつける ひろげてく～身近なトコから変えてく社会」

根岸えま氏（立教大学 からくわ丸）

松下泰樹氏（青山学院大学 せたがや学生ボランティアセンター）

森本コン氏（学生団体 ATMU！）

##### II. 交流プログラム

学生参加者同士のアイスブレイクを行った。簡単なゲーム、テーマごとに集まり語り合う等、全国の参加者と話す機会が設けられた。

##### 【2月26日（木）】

##### III. 分科会

今回参加した分科会は“第7分科会「広げよう！ボランティアコーディネーターの輪～私たちの思いを伝えるには～」”で、全国の学生ボランティアコーディネーターが集まり情報交換をするものであった。はじめに、班ごとに交流し各大学で実際に行っている活動内容を話し合った。次に、新潟青陵大学、聖学院大学、昭和女子大学、大阪府立大学から活動の事例発表が行われた。午後からはボランティアコーディネーターとして活動する上での課題を各大学で挙げていき、その解決策を考え班ごとに発表した。



#### IV. 全国学生ボランティア見本市「アクションマーケット」

全国の学生ボランティアセンター、民間のボランティア団体が活動情報発信を目的にブースを出展し、交流するものであった。ここでは分科会で関わることができなかった団体とじっくりお話することができた。

【2月27日（金）】

#### V. 分科会報告

#### VI. シンポジウム「学生の学ぶ力と地域創生“コミュニティデザイン”」

浅野英一氏（摂南大学外国語学部教授 地域連携センター副センター長）

安溪遊地氏（山口県立大学国際文化学部教授 国際文化学科長）

鶴賀康久氏（認定NPO法人カタリバ東北復興事業部女川向学館ディレクター）

松本裕也氏（ヤフー株式会社 社長室社会貢献本部）

### 4. 成果・課題

- ・ 他大学の学生ボランティアコーディネーターと情報交換を行うことで他大学の活動を詳しく知ることができた。他団体が行っている活動はユニークで、今後の当団体の活動の参考にしたい。
- ・ 分科会での話し合いで、当団体の活動内容と課題を再確認し、大学間で共有することで課題の解決策を得ることができた。（分科会での話し合いで出た意見等は26ページ【資料③】に示す。）
- ・ 他団体でボランティアコーディネーターの活動をよりよくするためにしている工夫を知り、当団体でも取り入れたいと考えた。具体的には、学生ボランティアコーディネーターの育成のための研修会や合宿を多く設ける、学生に体験談を話すことができるよう様々なボランティアに参加する等である。
- ・ 全国各地の団体とのつながりを持つことができた。特に新潟青陵大学の方々と話す機会が多く、同じ新潟県内の大学として、今後一緒に多くの活動に取り組んでいきたいと考えている。

### 5. 今後に向けて

団体内での話し合いだけでは新しい取り組み方を発見するのは難しい。今回のような集会に参加し、全国の学生ボランティアコーディネーターから様々な情報を得ることは今後の活動を行う上で重要である。来年も本集会に参加するのはもちろん、多くの研修会で他大学のボランティアコーディネーターと関わる機会を持つようにしたい。また、今回得た情報を団体内で共有し、現在抱えている課題を解決できるよう努めていきたい。

文責：須田夏実（農学部1年）



シンポジウムの様子



分科会

## 【資料③】 ボランティアフォーラム まとめ（分科会で出た意見・案）

### ★スタッフ

- ・ 模擬コーディネーション→学生役とコーディネーター役（新入生）に分かれ、ボランティアの広報をしていただく
- ・ アットホーム感をつくる
- ・ MTG を多めに
- ・ 活動のイメージを持つ→説明しやすい
- ・ フォーラムや集会への積極的参加→外部との交流
- ・ 大学に協力していただく
- ・ つながり不足→大きな目標を決める、話し合いの場を持つ
- ・ プライベートな集まりをつくる
- ・ 目標の明確化
- ・ スタッフの育成（パソコン、電話対応）

### ★広報など

- ・ ボランティアにスタッフも一緒に行く
- ・ 相手のことを知ることでニーズを知る
- ・ アンケートをとる(ボランち。を知っているか、認知度を上げる)
- ・ 出張説明会
- ・ 楽しみを押し出す（例：登山の帰りにゴミ拾い、旅行感覚）、付加価値をつける
- ・ スタッフ内での役割分担（年生には上級生がつく→相談しやすい）
- ・ 体験談を話す
- ・ 広報誌を定期的に作る
- ・ マスコットキャラのアカウントで、マスコット目線のツイート
- ・ マスコットキャラのぬいぐるみ、着ぐるみを作成
- ・ 傘の貸し出しの場を作る→連絡先をいただく→広報につなげる
- ・ 写真を多用→イメージを持ってもらう
- ・ 学生にはボランティアを通して社会と関わってほしい、成長してほしい
- ・ アフターケア→報告、日記帳を作る
- ・ シャベリ場→空いている時間にテーマごとに話す、体験談を話す
- ・ SNS の活用

## 平成 26 年度 西区地域福祉推進フォーラム

### 1. 概要

平成 27 年 3 月 14 日、黒崎市民会館にて、西区社会福祉協議会および西区役所健康福祉課共催のもと、「平成 26 年度西区地域福祉推進フォーラム ～つなげよう つながろう 支えあいの輪～」が開催された。当団体は、西区社会福祉協議会より依頼を受け、ボランティア団体の活動発表ということで、日頃の活動の様子を発表した。

### 2. 目的

本件に関して、当団体が自発的に参加したわけではないため、本報告書に記載がある他の事柄とは性格が異なり、目的については省略する。

本フォーラム開催の趣旨については、新潟市西区のボランティア活動の活性化および地域力を向上させることによって、該当地域の地域福祉をさらに推進していこうとするものである。

### 3. 内容

当日は各町内会の会長や民生委員など 152 名の参加があり、当団体の活動についてスライドを用いて発表した。(スライド内容については 29 ページ【資料④】参照) その他にも、ふれジョブクローバーの活動発表、認知症に関する講演会、それに関するシンポジウムなどが行われた。

### 4. 成果・課題

本フォーラムは、当団体の活動を学外に周知する良いきっかけになった。実際、アンケートには「今までよく知らなかった団体のことを知れて良かった」「大学生ボランティア、初めて知ることができた」などといった声が寄せられていた。このような声を真摯に受け止めるならば、当団体の認知度は区内はおろか、学内でも高いとは言えない。当団体の存在自体の周知をさらに広めていく必要があるだろう。

### 5. 今後に向けて

今後の展望として、単に活動を周知させることで終わるのではなく、本フォーラムを機に新たな人や団体とつながり、本フォーラムの真の目的に沿ったものにしていきたい。また、上記の課題解決のために、当団体をより多くの方に知ってもらおう努力を今後も続けていき、現在既に関係のある団体とは、さらに深い関係づくりに努めていきたい。

文責：日野稜馬（人文学部 1 年）



活動発表の様子

【資料④】 西区地域福祉推進フォーラムで使したスライド



新潟大学 学生ボランティア本部  
「ボランち。」  
—2015.03.14 西区地域福祉フォーラム

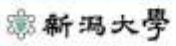


ボランティアコーディネーター 日野 稜馬

2015.03.14 西区地域福祉フォーラム

### 本日のおしながき

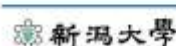
1. 「ボランち。」とは —その理念に迫る
2. 活動紹介 —学生ならではの特色
3. 手をとりあって —学外との団体と



2015.03.14 西区地域福祉フォーラム 2

### 「ボランち。」とは？

- 新潟大学の公認サークルであり、新潟大学学生ボランティア本部、通称「ボランち。」です。
- **学生みずから**が運営をするボランティアセンターであり、全国的にも珍しい組織です。
- 2004年の新潟県中越地震を機に、設立された団体です。

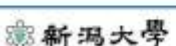


2015.03.14 西区地域福祉フォーラム 3

### 「ボランち。」の理念

ボランティアをしてみたいけど、  
どうしたら良いか分からない・・・。

どうしても、「一歩」が踏み出せない。



2015.03.14 西区地域福祉フォーラム 4

### 「ボランち。」の理念



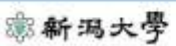
不安



2015.03.14 西区地域福祉フォーラム 5

### 「ボランち。」の理念

「キモチ」を受け止め、  
**そつと**後押しできるサポート



2015.03.14 西区地域福祉フォーラム 6

どんな活動をしているんですか？

### 「ボランティアコーディネート」

「ボランティアを求めている人」

と

「ボランティアをしたい人」



をつなげる活動です。

新潟大学

2015.03.14 西區地域福祉フォーラム

7

図にすると・・・

ポスター

HP

情報発信

ボランティアを  
してくれる人  
集めてよ。

このボランティア  
やらせてください。



ボランち。

ボランティア

ボランティアを募集している団体



ボランティアしたい人

新潟大学

2015.03.14 西區地域福祉フォーラム

8

### ターゲット

- 一般のボランティアセンターとは異なり、新潟大学生に情報提供しているという側面。
- 「大学生」という明確なターゲットが設定されている。

新潟大学

2015.03.14 西區地域福祉フォーラム

9

### 特色ある情報発信

- 学生ならではの、各種メディアを用いた情報発信。

twitter



気軽に、簡単に。

新潟大学

2015.03.14 西區地域福祉フォーラム

10

### 特色ある情報発信

Niigata University Volunteer Center

新潟大学学生ボランティア本部「ボランち。」



ホーム	活動情報 (ボランティア活動のサークル情報はこちら！)
お知らせ	2015年3月14日 西區地域福祉フォーラム開催のお知らせ
お申し込み	2015年3月14日 西區地域福祉フォーラム開催のお知らせ
お問い合わせ先	2015年3月14日 西區地域福祉フォーラム開催のお知らせ
お問い合わせ先	2015年3月14日 西區地域福祉フォーラム開催のお知らせ
お問い合わせ先	2015年3月14日 西區地域福祉フォーラム開催のお知らせ

新潟大学

2015.03.14 西區地域福祉フォーラム

11

### 特色ある情報発信

- 学生ならではの、各種メディアを用いた情報発信。
- 週に1回程度、メールマガジンの配信。(全学メールでの情報案内)
- サークル向けのボランティア広報。
- もちろん、ポスターでの情報発信も。

新潟大学

2015.03.14 西區地域福祉フォーラム

12

## 地域みなさんと、手をとりあつて。

大学のボランティアセンターという面だけでなく、  
**地域に根づいた**ボランティアセンターとして…。

- 地元団体「愛桜会」とのお花見パトロール
- 西区一斉クリーンデー
- 新潟西警察署と連携した、各種啓発運動
- コスボ学習支援ボランティア

## その他の活動内容

- 社会福祉協議会とのかかわり。  
…子ども勉強会 パワーアップ研修会
- ボランティアフォーラム、各種セミナー等への参加。
- インクカードリッジ、ベルマークの回収。
- 諸活動における、大学との連携。

## その他の活動内容



大学の広報誌  
「六花」への掲載

## 「ポランち。」の理念

「キモチ」を受け止め、  
**そつと**後押しできるサポート

## 「ポランち。」の理念



## 「ポランち。」の理念

ボランティアをしてみたいけど、  
どうしたら良いか分からない…。

どうしても、「一歩」が踏み出せない。

ご清聴  
ありがとうございました